

社会医療法人
康陽会

なかじま

TAKE FREE

2018年
01月発行 vol. 13

ご自由にお持ちください
[中嶋病院 地域医療連携室 広報誌]

TOPIC
1

Doctor's Pick up - 院長 富永 剛 -

TOPIC
2

Nakajima Zoom up - 診療看護師 -



あけましておめでとうございます。

皆様方には、新しい年を健やかに迎えられた事と、心からお慶び申し上げます。

昨年末、当院顧問・櫻井芳明が保健衛生の向上に寄与されたとして瑞宝中綬章(保健衛生功労)を受章いたしました。(写真左)

本年も、切れ目のない医療・福祉を目指し、益々地域の皆さまに愛し愛される病院として歩いていく所存です。

今号は、富永院長の新年のあいさつを掲載しております。是非ご覧下さい。

健康講座開催いたします。

KOUYOUKAI GROUP INFO

- 康陽会グループ インフォメーション -

町内会・団体様等で健康講座のご希望がありましたらいつでもご相談ください。
内容等、ご希望に沿うように対応しております。
お問い合わせ地域医療連携室(東海林・庄司)までご連絡ください。

11月22日(水)

場所 仙台市小鶴老人福祉センター

「薬の正しい飲み方」

▶講師/中嶋病院薬剤科 科長 神野俊和



講座終了後、当院看護師による健康相談会を開催

開催例

平成29年度

11月25日(土)

場所 社会福祉法人康陽会 特養J&B

「認知症ってどんな病気?
介護サービスとは」

▶講師/グループホームJ&B小田原 管理 伊藤伸明



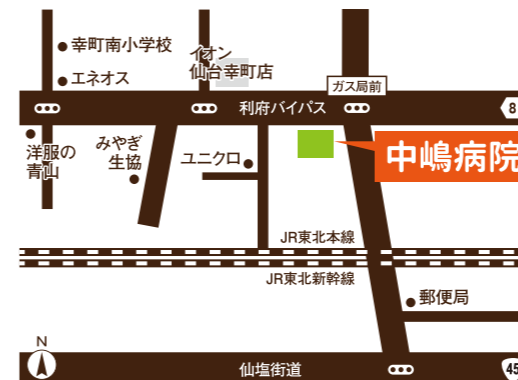
news

当院顧問・櫻井芳明が瑞宝中綬章を受章致しました。



「保健衛生功労」

永年にわたり保健衛生事業に従事して功労を積み重ね、
保健衛生の向上に寄与されたことを表彰する場合に授与されます。



ご意見・ご要望・お問い合わせはコチラまで

中嶋病院 [地域医療連携室] renkei@nakajima-hs.or.jp

TEL 022-292-0820 FAX 022-292-0508

〒983-0835 宮城県仙台市宮城野区大槻15-27

◎社会医療法人 康陽会		
中嶋病院	☎ 022-291-5191	中嶋ケアプランセンター
介護老人保健施設けやき	☎ 022-257-2020	☎ 022-292-0507
介護老人保健施設コジーケア・ホーム	☎ 022-255-2525	コジーケアプランセンター
介護老人保健施設メール小田原	☎ 022-267-5121	☎ 022-396-0965
仙台東部訪問看護ステーション	☎ 022-296-2055	ケアプランセンターメール小田原
		☎ 022-267-5124
		岩切地域包括支援センター
		☎ 022-255-2524

◎社会福祉法人 康陽会		
特別養護老人ホーム J&B	☎ 022-291-2216	清水沼デイサービスセンター
介護付有料老人ホーム J&B	☎ 022-291-2217	☎ 022-291-2218
		グループホームやわらぎ
		☎ 022-292-2531
		グループホームJ&B小田原
		☎ 022-714-5088

広報誌についてのお問い合わせ
中嶋病院 [法人管理室]
TEL 022-292-3277

新年のご挨拶 「ほっちゃんれ」

院長 富永 剛

毎朝の病院までの通勤路、陸前原ノ町駅で電車を降り、坂下交差点で梅田川を渡ります。かつてドブ川だったこの川も、時には「水辺の宝石」カワセミも現れる清流となり、晩秋になると鮭の産卵する姿まで見られます。私が以前暮らした北海道では、産卵場所を目指して川を遡り、体が傷つきヨレヨレになった鮭のことを「ほっちゃんれ」と言います。脂身が無くなり、食べてもあまり美味しくなく、捨てるしかないからです。彼らは次世代に命を繋ぐと、程なく一生を終えます。役割を果たし、潔く旅立つ姿には、畏敬の念さえ覚えます。



▲梅田川に佇むカワセミ



▲ほっちゃんれ

さて、私も子育てが終わった身分。もし鮭だったら「ほっちゃんれ」となりますが、趣味の登山に出掛けるなど、余生?を楽しめるので、人間に生まれて本当に良かったと思っています。戦後の日本人の平均寿命は、医療の発展に伴って飛躍的に伸びました。その結果、加齢による老いは避けられず、認知症が増えています。当院でも昨年「もの忘れ外来」を始めました。認知症を完治させる薬はありませんが、少しでも健やかに生活してもらいたいと思っています。ただ、徐々に進行していく認知症患者に対して、どこまで医療を施すべきか医療現場では悩みます。個人的には、認知症が進み自分できちんと判断できない高齢者に対し、透析を開始したり大きな手術や抗癌剤治療を行ったりするのはお勧めできません。過剰な延命医療はむしろ高齢者を苦しめ、本人の尊厳を失わせかねないからです。またそれは国民医療費を押し上げる要因にもなっています。

人の命には限りがあり、老いは避けられません。病んでいる人の苦痛を和らげ、尊厳を持って生きる手助けすることが、私たちの第一の使命です。それと同時に、限りある命にどう向き合っていくのか、日頃から診察室で患者さんやご家族と真剣に話し合うことも大事であると思っています。決して「ほっちゃんれ」扱いすることはありませんので、ご安心を。

(撮影:いづれも著者)

今年も中嶋病院を宜しくお願い致します。

TOPIC 1 Doctor's Pick up

TOPIC 2 Nakajima Zoom up

医師と看護師の中間役を担う

当院には、診療看護師という資格を持った看護師がいます。今回は、診療看護師である石川さんに、お話をお伺いしてみました。

【Q】診療看護師について教えてください。

【A】2017年8月に、中嶋病院での診療看護師として働き始めて約1年が経過しました。診療看護師とは、あまり耳にしない職業だと思います。

海外では、昔から通常は医師が行うべき医療行為を、実際に患者に施すことができるナースプラクティショナーという職業がありました。

日本では看護師の行える医療行為は、採血、点滴薬剤の投与、注射(静脈注射、皮下注射、筋肉注射など)、導尿や膀胱留置カテーテルの挿入、痰や異物の吸引、胃管(マーゲンチューブ)の挿入などがありますが、原則医師の指示が



なければ実施することはできません。

これに対し、海外のナースプラクティショナーを参考に日本でも2008年より看護師の行える医療行為に加え、病気の初期診断に基づき独自で薬の処方や投薬などを行うことができる診療看護師の養成が開始となりました。

【Q】実際には、どのようなことを行っているのですか。

【A】現在、診療看護師は21区分38分野の実施をすることができます。言わば、看護師の役割であるケア(援助)と医師の役割であるキューア(治療)両立させたそんな職業です。

2013年に診療看護師の資格を取得。その以前に取得していた皮膚・排泄ケア認定看護師の専門性をいかし、院内及び施設や住宅での褥瘡(床ずれ)や創傷エマートケア失禁ケアを実践、適切なケア方法を選択し、指導コンサルテーションを実施しています。

褥瘡(床ずれ)や創傷などにお困りの際は、お気軽にお声がけください。

今回は、診療看護師の石川さんへインタビューをしました。中嶋病院には、みなさんを医療の面から支える、さまざまな医師、スタッフ、部門があります。次回もお楽しみに!

医療連携施設のご紹介

シップヘルスケアファーマシー 東日本株式会社 グリーンライフ仙台



住宅型有料老人ホーム

自立の方から入居できます。その人らしいオーダーメイドの生活を提供します。

介護付有料老人ホーム

・手厚い人員配置(2.5:1の人員配置)
・充実したリハビリ・アクティビティーの充実

TEL / 022-304-3350
FAX / 022-304-3354